

放射線に関する Q & A

放射線は目に見えません。しかし正しく認識し、対処することで過剰な心配や、無用な被ばくを避けることができます。放射能対策室では定期的に、この Q & A を連載していきます。

監修＝相馬市健康対策
専門部会委員、東京大
学医科学研究所
坪倉正治
作成＝放射能対策室



Q もうすぐ花粉症のシーズンですが、放射性物質が花粉と一緒に体内に入りますか？

A 3月に入り暖かくなるにつれて、県内でもスギ花粉の飛散量が増えてきます。花粉が鼻や目につくことで身体がアレルギー反応を起こし、鼻水（鼻炎）や目のかゆみ（結膜炎）になることを花粉症といいます。

花粉中の放射性物質に関して、完全に「ゼロ」というと語弊がありますが、現在は相当に少ない量であることが林野庁による平成 23 年度から 27 年度のスギ花粉検査結果からも判明しています。例えば、南相馬市鹿島区榎原ではスギ花粉中の放射性セシウム（セシウム 134+137）濃度は、平成 23 年度には 1 kg あたり 16,400 ベクレルでしたが、平成 27 年度は 240 ベクレルに減少しています。下記の表にあるように、ほとんどすべての場所で年々その値は減少傾向です。

また、花粉は身体に取り込むといっても、ごく微量しか体内に入り得ません。放射性セシウムを含むスギ花粉を吸入した場合の内部被ばく量は、平成 27 年度調査結果の最高値（1 kg あたり 8,800 ベクレル）を基に計算したとしても、1 時間あたり 0.0000077 マイクロシーベルトと極めて低い線量と推定されます。これは空気中にある花粉が非常に微量のため、一緒に身体に入ると思われる放射性セシウムの量も微量になるからです。花粉は 1 年中飛び続けるわけではありませんが、年間の内部被ばく量を計算しても 0.0000221 ミリシーベルトと計算されます。これは空気中に元々ある自然の放射性物質から受ける内部被ばく量（年間で 1.26 ミリシーベルト）と比べて約 60000 分の 1 です。健康への影響を考えるレベルにありません。

人によっては、鼻炎や結膜炎に対して花粉症対策は必要ですが、花粉についての放射性セシウムのことを考えて対策をとる必要はありません。

スギ林の所在地	調査結果（単位：ベクレル/kg）				
	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
浪江町小丸	253,000	90,500	59,000	20,500	8,800
飯舘村長泥	49,300	25,800	6,960	6,810	3,820
南相馬市鹿島区榎原	16,400	4,370	2,170	1,130	240
川俣町大字小綱木	1,230	741	400	712	242
川内村大字下川内	4,710	1,690	389	256	ND

表 各地点のスギ花粉中の放射性セシウム濃度について（ND は 100 ベクレル/kg 未満）
※その他の地点の結果について、林野庁のホームページで公開しています。

出典：▽林野庁ホームページ

●問い合わせ先 放射能対策室 ☎ 37-2270

自家消費野菜などの放射性物質測定結果

●1月分

▽測定件数 測定件数 31件
（内訳：野菜 18件、果実 3件、新米 1件、古米 2件、その他 7件）

▽基準値を超えた食品 0件

●相馬市で出荷制限などを受けている食品（2月5日現在）

▽くさそてつ（こごみ）▽た

けのこ▽ふきのとう（野生）

▽ぜんまい▽たらの芽（野生）

▽原木しいたけ（露地）▽原

木なめこ（露地）▽野生きの

こ▽こしあぶら▽うど（野生）

▽牛（県の定める出荷・検査

方針に基づくものを除く）

※最新の情報は、福島復興ス

テーションホームページ内

の「農林水産物の緊急時環

境放射線モニタリング結果

【詳細】でご確認ください。

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/site/portal/non-kekah.html>

<http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html>

◎これまでの食品の検査結果

（相馬市ホームページ）

<http://www.city.soma.fukushima.jp/housyasen/index.html>

●問い合わせ先 放射能対策

室（☎ 37 2 2 7 0）